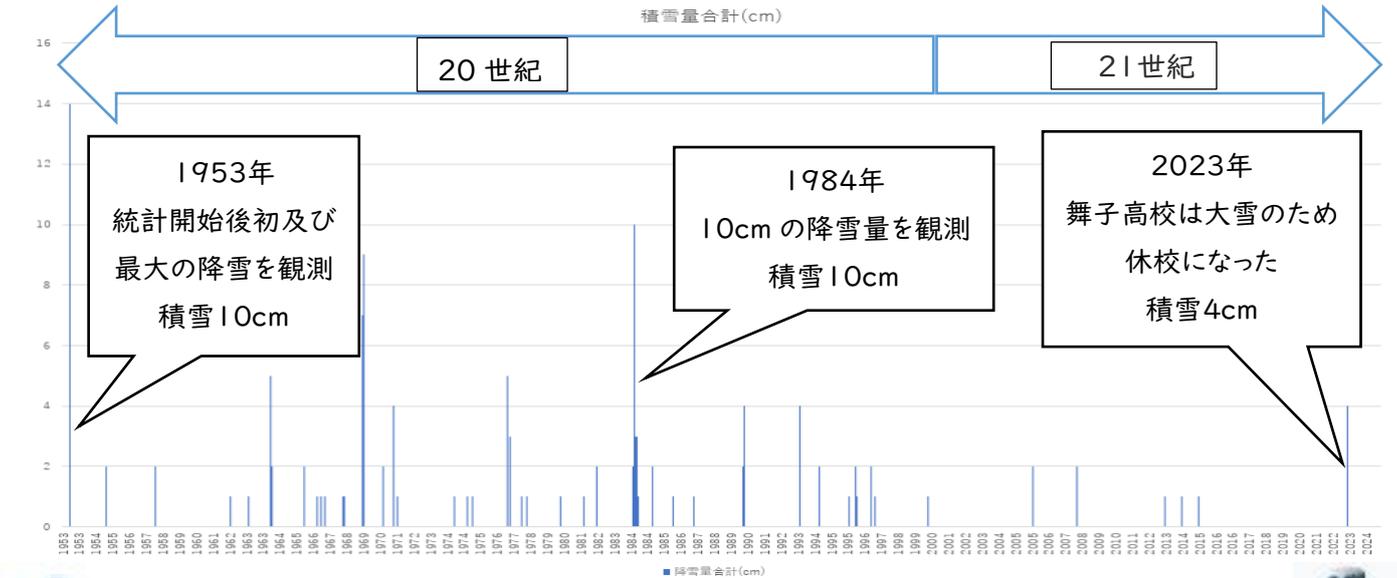


神戸市に雪は降るのか？

2月の初旬は、記録的かつ長期的な寒波が日本列島を覆いました。今回の寒波では、神戸市は北区などの山間部で雪が積りましたが、市街地は雪が降りましたが積りませんでした。では、あまり降雪のイメージがない神戸市ですが、過去にどれくらいの雪が降ったのでしょうか。今回は神戸市と雪の関係を紹介したいと思います。

下の図は、過去の神戸市の降雪量のグラフ及び神戸市とその他の地域の累計降雪量のグラフです。それでは見てみましょう。

※グラフ及び表は降雪量を示しており、たとえ雪が降っても気温等の条件で雪が積もらないこともあります。



【グラフ】神戸市の各年の降雪量(1953年1月～2024年12月)

1	京都 1052cm	2	名古屋 929cm	3	横浜 864cm	4	東京 837cm
5	広島 792cm	6	佐賀 591cm	7	下関 478cm	8	鹿児島 432cm
9	長崎 431cm	10	福岡 379cm	10	津 379cm	12	岡山 186cm
13	大阪181cm	14	松山 157cm	15	熊本 152cm	16	神戸141cm

【表】「降雪の印象が少ない」主要都市の1953年1月から2024年12月までの累計降雪量

(イラスト 左:旧気象庁雪マーク 右:新気象庁雪マーク)

神戸市では、21世紀に入ると急激に降雪量が減少しています。しかし、20世紀後半は数年に一度の頻度で降雪していたことがわかります。この原因は、地球温暖化により気温が高くなり、本来であれば雪として降るはずが雨として降ってしまうことが多くなったと考えられます。雪の量が顕著に多い名古屋、横浜、東京は南岸低気圧の影響により、たびたび大雪に見舞われているため、降雪量が多くなっています。

神戸市は兵庫県南部に位置し、瀬戸内側の大都市の一つです。そのため、瀬戸内気候の特徴である冬の降水量が少ないこともあって神戸市は雪が降りにくい地域となっています。しかし、雪の少ない神戸市にも雪が降るシナリオはいくつかあります。次の4つが挙げられます。

- ①日本海側(豊岡などの北部)からの収束してできた強い北風によって、兵庫県南部に雪雲が流れ込む場合
- ②瀬戸内海の海水により雪雲が形成され兵庫県南部の沿岸部に流れ込む場合
- ③播磨南西部(姫路など)にある山地から突如雪雲が発生して南東方向に流れ込み、神戸市に雪雲がかかる場合
- ④南岸低気圧により寒気が南下してきて雪が降る場合 です。

神戸市は雪が降りにくい地域ではありますが、様々な気象状況によって雪が降り、積もるときもあります。大雪シーズンは2月までが大半ですが、2月末までは引き続き寒さと大雪に備えてください。